

- ・連絡会合同企画セッション(シニアネットワーク(SNW)連絡会,原子力青年ネットワーク(YGN)連絡会,学生連絡会)(一般公開)

「世代を超えて皆で語ろう どうなる地球環境、エネルギーと我が国の将来 (講演と討論)」

## 女性による市民との原子力コミュニケーション活動

エネルギー広報企画舎代表、WIN会員 森崎 利恵子

### 市民による原子力理解の現状

近年、エネルギーの安定供給や地球温暖化防止策としての原子力の優位性が改めて見直され、国の政策の柱の一つとして位置づけられたことは、原子力業界にとっても大きな前進であると思います。また、これまでの間、技術者の弛まぬ努力により、技術はより安全に、より確実なものに、と前に進んでいると確信しています。

このように原子力が追い風を受けている中、やや遅れをとっているのではと思うのが、市民からの「真の原子力理解」です。では何が足りないのか、これからどうしていけばよいのかを考えたいと思います。

### WIN - Jの原子力理解活動

原子力に業務または学問として携わる女性により構成されている世界組織の一つに、WIN (Women in Nuclear) があります。日本にも支部的組織があり、WIN - Japan (以下、WIN - J) として約130名の正会員が活動しており、準会員、賛助会員(賛同してくださる男性)のサポートを受けています。

WIN - Jでは定期的に勉強会などで自分たちのスキルアップを図るとともに、各地域の電力会社や研究機関等とタイアップし、一般女性の素朴な疑問や素直な不安をぶつけていただく交流会も実施しています。男性には気後れしてしまう、という女性からも「女性同士だと生活シーンで共有しているものもあり、親しみやすく尋ねやすい」と好評を得ています。

このように、WIN - Jでは『HEART to HEART』というコミュニケーション活動を地道に取り組んでいます。しかし今のWIN - Jだけでは活動範囲が限られており、この『HEART to HEART』のコミュニケーション活動をいかに広げていくか、が今後の課題の一つです。

### 課題解決のために

女性同士でなければ心のドアを開けない、というわけではありません。実際に技術で携わっている方の「私が担当しています。任せてください!」の言葉は、男性からであれ女性からであれ、市民の方の心に届くと思います。本来業務の合間にでも、ぜひコミュニケーションの場に出てきていただきたい。それがどうしても難しい場合は、周囲の女性のWIN - J活動などを支援していただきたいと思います。

また市民の方も、もっと原子力に関心を持っていただきたいと思います。少しでも疑問・不安があれば、積極的に情報を取りに動いて、理解・納得が得られたら、次は発信者になっていただきたいと思います。

これからは原子力に携わる者にとっての原子力コミュニケーション活動や、市民にとっての原子力というのは、決して他人事ではない、と認識することが大切なのではないでしょうか。